



Sun Fire™ V1280/Netra™ 1280 システムご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No. 817-1400-10
2003 年 2 月, Revision A

コメントの宛先: docfeedback@sun.com

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品のの一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Fire V1280/Netra 1280 Product Notes Part No: 817-0513-11 Revision A
-----	---



Adobe PostScript

Sun Fire V1280/Netra 1280 システムのご使用にあたって

このマニュアルでは、Sun Fire V1280/Netra 1280 システムに関する特記事項および最新情報、マニュアルの修正点について説明します。

このマニュアルは、次の節で構成されます。

- 2 ページの「オンラインマニュアル」
- 2 ページの「マニュアル CD」
- 2 ページの「マニュアル CD」
- 2 ページの「システムのソフトウェア要件」
- 5 ページの「ソフトウェアに関する注意事項」
- 12 ページの「ハードウェアに関する注意事項」
- 16 ページの「名称に関する注意事項」

オンラインマニュアル

オンラインマニュアルは、下記の URL より参照できます。

<http://www.sun.com/documentation>

このサイトを定期的にチェックして、製品マニュアルの最新版を確認してください。

マニュアル CD

Sun Fire V1280/Netra 1280 のマニュアル CD に収録されている README.TXT および README.PDF ファイルには、オンラインマニュアルへのアクセス方法に関する最新情報が記載されています。

システムのソフトウェア要件

Sun Fire V1280/Netra 1280 サーバーには、このサーバーをサポートする、Solaris™ 8 2/02 以降の Solaris オペレーティング環境が必要です。使用している Sun Fire V1280/Netra 1280 サーバーに適切なバージョンのオペレーティング環境がインストールされていることを確認するには、`/etc/release` ファイルを調べてください。このファイルに「Solaris 8 2/02」という文字列か、それ以降の互換性のある Solaris リリースを示す文字列が含まれていることを確認します。

必須パッチおよび推奨パッチ

注 — 一部のパッチは契約ユーザーにだけ提供されます。SunSolve Online Web サイトからパッチをダウンロードできない場合は、購入先から入手してください。北米のユーザーは、1-800-USA-4SUN までご連絡ください。

すべてのバージョンの Solaris オペレーティング環境の必須パッチおよび推奨パッチ

Sun Fire V1280/Netra 1280 のファームウェアバージョンは、5.13.0009 以上である必要があります。このファームウェアのバージョンは、将来更新される可能性があります。最新のファームウェアは、SunSolve からダウンロード可能なパッチを適用することで提供されます。このファームウェアの更新用のパッチ ID は 113751 です。最新バージョンのパッチ 113751 をインストールしてください。

表 1 すべてのバージョンの Solaris オペレーティング環境の推奨パッチ

パッチ ID	説明
110208-17	Netra Lights Out Management 2.0 パッチ*

* Solaris 9 Update 2 には必要ありません。

Solaris 8 Update 7 2/02 オペレーティング環境の必須パッチおよび推奨パッチ

表 2 Solaris 8 2/02 オペレーティング環境の必須パッチ

パッチ ID	説明
*112396-02 以降	SunOS 5.8 : /usr/bin/fgrep コマンドパッチ
*108987-09 以降	SunOS 5.8 : patchadd および patchrm コマンドパッチ
111883-14 以降	Solaris Ethernet ドライバパッチ

* パッチ 112396 および 108987 をインストールしてから、ほかのパッチをインストールしてください。

表 3 Solaris 8 2/02 オペレーティング環境の推奨パッチ

パッチ ID	説明
110460-23 以降	SunOS 5.8 : fruid/PICL プラグインパッチ
112336-02 以降	SunVTS™ 4.6 パッチ
109962-07 以降	FC-AL ディスク ドライブファームウェアパッチ
*111412-09 以降	SunOS 5.8 : Sun StorEdge™ Traffic Manager (MPxIO) パッチ
*111413-08 以降	SunOS 5.8 : luxadm および liba5k、libg_fc パッチ

表 3 Solaris 8 2/02 オペレーティング環境の推奨パッチ

パッチ ID	説明
*111095-10 以降	SunOS 5.8: fctl/fp/fcp/usoc ドライバパッチ
*111096-04 以降	SunOS 5.8: fcip ドライバパッチ
*111097-10 以降	SunOS 5.8: qlc ドライバパッチ

* パッチ 111412 および 111413、111095、111096、111097 には、SUNWsan パッケージ (SAN Foundation Kit) が必要です。SUNWsan パッケージは、Sun Download Center から入手できます。URL は次のとおりです。

<http://www.sun.com/storage/san/>

このサイトから、最新の SAN リリースのソフトウェア/ファームウェアアップグレードをダウンロードしてください。まず、SUNWsan パッケージをインストールしてから、111412、111413、111095、111096、111097 の順にパッチをインストールします。すべてのパッケージをインストールするまで、システムを再起動しないでください。

注 - 110460-23 および 112336-02 以外のパッチは、差し込み式の PCI カードを使用している場合にのみ必要です。

インストールサーバーでの ce Ethernet ドライバの更新

Solaris 8 2/02 オペレーティング環境用の ce Ethernet ドライバが更新されました。ネットワークインストールを実行する場合は、インストールサーバーのネットインストールイメージにパッチ 111883-14 以降を適用してから、クライアントシステムをインストールする必要があります。

1. 111883-14 以降のパッチをダウンロードします。

パッチの入手方法については、2 ページの「必須パッチおよび推奨パッチ」を参照してください。

2. インストールサーバーの起動イメージにパッチを適用します。次のコマンドを実行します。

```
# patchadd -C <Install-Image-Path>/Solaris_8/Tools/Boot/ <patch-path>
```

3. クライアントシステムの ok プロンプトで boot net コマンドを実行して、インストールを開始します。
4. インストールが完了したら、新しく作成されたシステムに 111883-14 以降のパッチを適用します。

ソフトウェアに関する注意事項

このリリースでは、以降に示すソフトウェアに関する問題が確認されています。ほとんどの場合、回避策は必要ありませんが、必要な場合は問題点の説明に続いて回避策に関する情報を示します。角括弧 ([]) 内の番号は、バグ ID です。

LOM パッケージの更新

Solaris 8 Update 7 (02/02) のサブリメント CD で提供される Lights Out Management 2.0 パッケージによって、Sun Fire V1280/Netra 1280 プラットフォームで LOM がサポートされるようになりました。このパッケージの最新パッチは、パッチ 110208 として SunSolve から入手できます。SunSolve からパッチ 110208 の最新版を入手して Sun Fire V1280/Netra 1280 にインストールし、LOM ユーティリティの最新のアップデート版を使用することをお勧めします。

[4645225、4737289、4513410、4513475、4677021、4716003]

システムコントローラファームウェアの問題

システムコントローラファームウェアのバージョン 5.13.0009 には、以降に示す問題があります。ファームウェアのバージョンは、lom> プロンプトで showsc コマンドを使用して確認できます。

```
lom>showsc

SC: SSC1
Clock failover disabled.

SC date: Fri Sep 27 14:47:57 GMT+01:00 2002
SC uptime: 56 seconds

ScApp version: 5.13.0009 LW8_build0.9
RTOS version: 23

Solaris Host Status: Active - Solaris

lom>
```

ScApp のバージョン番号に、インストールされているファームウェアのバージョンが表示されます。ファームウェアの問題は、番号および説明によって識別できます。

Solaris で lom -G コマンドを使用してファームウェアイメージを更新する場合の問題

『Sun Fire V1280/Netra 1280 システム管理マニュアル』で説明しているように、Sun Fire V1280/Netra 1280 システムでは、次の 2 つの方法でシステムファームウェアを更新できます。

- lom> プロンプトから flashupdate コマンドを実行する方法
- lom (1m) ユーティリティを使用して、Solaris から lom -G コマンドを実行する方法

ただし、現時点では、lom -G コマンドではなく、flashupdate コマンドを使用する方法をお勧めします。

ファームウェアバージョン 5.13.0009 で lom -G コマンドを使用すると、メモリー不足によるパニックが発生して LOM 機能が使用できなくなる可能性があります。

flashupdate ではなく lom -G コマンドによる更新が必要な場合は、lom -G コマンドを実行する前に次の手順を実行すると、メモリーのパニックを回避できる場合があります。

1. resetsc コマンドを実行して LOM をリセットします。

```
lom>resetsc -y
```

2. resetsc が完了するまで待機し、続けて Solaris から lom -G コマンドの手順を実行します。

この手順によって前回の Solaris の起動操作で保持されていたメモリーが回復し、lom -G コマンドの実行に十分なメモリーを確保できます。

[4753702]

LOM/システムコントローラのハードウェアリセットによって、Solaris のドメイン障害が発生する場合がある

LOM/SC (Lights Out Management/システムコントローラ) 装置上で、ソフトウェアに関する重大障害がまれに発生した場合は、ハードウェアウォッチドッグ機能によって装置がリセットされるように設計されています。

ハードウェアウォッチドッグでは、コンソールバスの動作、スレッドのスケジューリング、I2C の動作を監視します。これらの 3 つの動作がすべて定期的に発生すると、ハードウェアウォッチドッグによる書き込みが行われ、タイマーがリセットされます。これらの動作が発生しないと、ウォッチドッグによる書き込みは行われず、LOM/SC のハードウェアがリセットされます。ウォッチドッグでのタイムアウトが発生する可能性は、きわめて低いと考えられています。

また、このような LOM/SC 装置のハードウェアリセットが発生しても、多くの場合、動作中の Solaris プロセスが中断されることはありません。

ただし、まれに、LOM/SC ハードウェアリセットによって処理中のシステムハードウェア操作が中断され、Solaris のクラッシュが発生し、その結果システムの再起動および回復処理が必要になる場合があります。

根本的な原因は調査によって判明していますが、現時点では、この現象が発生しなくなるようにする手段はありません。

ソフトウェアでの回避策として、ウォッチドッグ機能を完全に無効にする方法が考えられます。この設定作業が必要な場合は、ご購入先にお問い合わせください。ただし、ウォッチドッグを無効にすると、LOM/SC が、システムの外部電源を完全にリセットすることでしか回復できない状態になる可能性があります。

[4804859]

LOM/システムコントローラの Ethernet ポートはセキュリティー保護されたネットワークだけに接続する

Sun Fire V1280/Netra 1280 は、システムコントローラのシリアルポートおよび 10/100 Ethernet ポートのどちらからも管理できるので、両方のポートのセキュリティー管理が必要です。

シリアル通信の性質上、シリアルインタフェースには Ethernet より容易にアクセスできます。

ただし、システムコントローラの 10/100 Ethernet ポートについても、セキュリティーリスクの可能性を最小限にするために、Solaris オペレーティング環境に接続する Gigabit Ethernet とは別の、セキュリティー保護されたサブネットに接続することをお勧めします。

アクセスを制御しないと、10/100 Ethernet ポート接続を介して、LOM/システムコントローラが DoS 攻撃 (サービス不能攻撃) を受ける恐れがあります。

[4722670]

ファームウェアの更新中のオン/スタンバイスイッチの使用

ファームウェアの更新操作中に、システムボードの電源を切断しないでください。電源を切断すると、システムボードに無効なファームウェアイメージが残る場合があります。『Sun Fire V1280/Netra 1280 システム管理マニュアル』のファームウェアの更新手順では、電源を切断しないように管理者に明示的に警告し、すべてのコマンドをコンソールで実行することを推奨しています。これによって、ファームウェアの更

新中に、ほかの管理者がシステムボードの電源を切断する問題を防ぐことができますが、ファームウェアの更新中にオン/スタンバイスイッチを操作することで、システムボードの電源を切断した場合と同じ影響を及ぼす可能性は残っています。

現時点では、ファームウェアの更新処理中にオン/スタンバイスイッチを操作してシステムの電源を切断することは禁止されていませんが、ファームウェアの将来のリリースでは禁止するように変更されます。

[RFE 4645195]

電源投入後はエスケープシーケンスのあとにキャリッジリターンが必要

poweron コマンドを使用してシステムに電源を投入したあと、lom> プロンプトを表示するには、エスケープシーケンス (デフォルトは #.) の入力後にキャリッジリターンを入力する必要があります。

[4645483]

電源投入シーケンスのあとの最初の文字が無視されるように見える

オン/スタンバイスイッチでシステムに電源を投入して、OpenBoot PROM または Solaris を起動したあと、最初に入力する文字が無視されたように見える場合がありますが、実際には文字は LOM シェルに送信されています (2 文字目以降は正常に入力できます)。これが原因で、コンソールへのログインが失敗するか、または OBP プロンプトでコマンドを誤入力したように見えることがあります。この問題は、プロセッサが適正温度を超えたためにシステムコントローラによってシステムが再起動されたあとにも発生します。

この問題は、システムの起動後に OBP またはコンソールのログインプロンプトで最初にキャリッジリターンを入力することで回避できます。

[4731349]

bootmode forth は電源投入時だけ動作する

bootmode コマンドの forth 引数は、スタンバイ状態のシステムに電源を投入するときだけに有効です。『Sun Fire V1280/Netra 1280 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』に再起動時に動作すると記載されていますが、これは誤りです。

[4748606]

インターコネクトテストで不合格になった CPU/メモリーボードの使用不可への切り替え

インターコネクトテストで不合格になった CPU/メモリーボードが存在すると、poweron コマンドによってシステムに完全に電源が投入されない場合があります。

暫定的な措置として、サービスが介入する前に、システムコントローラの lom> プロンプトで次の一連のコマンドを実行して、障害が発生した CPU/メモリーボードをシステムから切り離すことができます。

```
lom>poweroff
.
.
lom>disablecomponent SBX
.
.
lom>resetsc -y
```

このあとの poweron コマンドは正常に実行されます。

[4716913]

lom> プロンプトからの停止要求にシステムが応答できない

この現象は、LOM/システムコントローラのストレステストで LOM の poweron および shutdown コマンドを連続して実行したときに、きわめてまれに発生することが確認されています。

この現象が発生した場合には、次の方法でシステムの電源を切断してください。

```
lom>console
# init 5
```

[4755325]

Solaris の問題

「Interrupt Level 4 Not Serviced」メッセージ

Solaris 8 Update 7 (02/02) の動作中に、`/var/adm/messages` に次のメッセージが出力される場合があります。

```
WARNING: interrupt level 4 not serviced
```

原因は特定されていません。また、このメッセージによる悪影響は確認されていません。

[4621080]

picld デーモンの競合状態

Solaris 起動時の picld デーモンの初期化処理で、まれに競合状態が発生する場合があります。この状態が発生すると、`/var/adm/messages` に次のメッセージが出力されます。

```
picld: ptree_create_and_add_prop _fru_parent failed
```

この状態が発生すると、picld デーモンは自動的に起動されません。picld デーモンを手動で再起動する必要があります。手順は次のとおりです。

スーパーユーザーで、次のように入力します。

```
# /etc/rcS.d/S95picld stop  
# /etc/rcS.d/S95picld start
```

インストールされているファームウェアの変更によって、この競合は発生しなくなりましたが、根本的な Solaris のバグは修正されていません。

[4679229]

ファンの回転速度の障害しきい値データが PICL に表示されない

PICL ツリーのファンを示すノードには、各ファンの現在の速度が表示されます。現時点では、速度だけが表示され、ファンの状態は表示されません。

ほかのプラットフォームでは、ファンの現在の速度とともに、障害の発生を判断する基準になる速度のしきい値が示されて、ファンの状態を確認できます。この障害しきい値は、PICL の「LowWarningThreshold」プロパティに表示されます。また、prtdiag などのクライアントによって確認する方法が一般的です。

[4701099]

システム名

ほかの多くのサンのサーバーと同様に、prtcnf -v および uname -a コマンドを実行したときには内部システム名 SUNW,Netra-T12 が表示され、Solaris の /usr/platform/sun4u/sbin/prtdiag および OBP の banner コマンドを実行したときには対象の製品名 Sun Fire V1280 が表示されます。

オンボードの Ethernet ポートは Gigabit の半二重モードで動作しない

オンボードの Ethernet インタフェースは、Gigabit Ethernet の半二重 (1000HDX) モードをサポートしません。Gigabit Ethernet の全二重モードは完全にサポートしません。

ハードウェアに関する注意事項

IB_SSC の発火時の電源切断

延焼防止システムの一環として、Sun Fire V1280/Netra 1280 の IB_SSC には 1 度だけ動作する高温センサーが取り付けられており、発火時にはただちに炎の広がりを抑えます。

このセンサーが反応して動作すると、システム内の 48 V 主電源と、電源装置の冷却用ファンを除くすべての冷却用ファンの電源が切断されます。

センサーによって 48 V 主電源が切断されたときには、電源、メインファン、IB ファンなどに関する多数のエラーメッセージが出力されると考えられます。センサーまたはそのケーブルが損傷するか外れたときにも、システムは、火災によって重大な過熱状態が発生した場合と同様に反応します。

システムコントローラファームウェアの現在のリリースは、このセンサーの状態を検出せず、ログにメッセージが送信されません。センサーの動作状況や、障害または取り外しを報告するメッセージ出力機能の拡張が要望されていますが、現時点では未対応です。この機能拡張が実現すると、電源および冷却の異常停止に関するエラーメッセージが出力されても、センサーの状態メッセージによって異常停止のメッセージがログに出力された原因を判断できるようになります。

[4754375]

メインファントレー

注 – システムの正面にあるファントレーはホットプラグ対応部品ではないので、システムを動作させるときには、ファントレーへのコネクタをスライド式のラッチでベースプレーンに固定しておく必要があります。システムに電源が投入されている状態でコネクタを取り外すと、損傷する場合があります。

損傷が発生すると、制御信号が、ファームウェアによってオン/スタンバイスイッチからの電源投入要求と解釈される可能性があります。そのため冷却が不十分な状態が発生し、適正温度を超える状態になってシステムが停止します。制御信号の損傷の性質によっては、この誤動作が繰り返される場合があります。

[4746124]

DB-25 または DB-9 アダプタを使用したシリアル接続

『Sun Fire V1280/Netra 1280 システムサイト準備および設置マニュアル』に示されているように、使用するアダプタが適切にクロス接続されていることを確認してください。

サンが認定していない PCI カードを Sun Fire V1280 プラットフォームで使用する際の注意事項

システムの動作を確実に維持するために、Sun Fire V1280/Netra 1280 システムに取り付けるすべての PCI カードおよび関連するドライバには、サンがこのプラットフォームでの使用を認定したものを使用してください。サンが認定していないカードおよびドライバを使用すると、特定のバス上のカードとドライバの間に相互作用が発生し、システムパニックなどの問題につながる可能性があります。

Sun Fire V1280/Netra 1280 システムの認定済みの PCI カードおよび構成に関する最新情報については、購入先にお問い合わせください。詳細は、次の URL の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/io>

DC 電源装置 (Netra 1280 のみ)

Netra 1280 に電源装置のスロット PS2 および PS3 からのみ電力が供給されている場合、不正なエラーメッセージが表示されることがあります。

スロット PS2 および PS3 からの電力でのみ動作している Netra 1280 では、多くの場合、この障害の原因が A 側の電力供給である可能性があります。この障害が発生すると、電源装置や配電盤に関連する不正なエラーメッセージや SEEPROM メッセージが表示されることがあります。

このメッセージは、システムの操作に影響を与えるものではなく、スロット PS0 および PS1 への電力供給が回復すると発生しなくなります。

通常、表示される不正なエラーメッセージは、次のいずれかの形式になります。

1. 次のようなメッセージが表示されます。

```
PS2, hotplug status, PS2, module removed (9,16)
```

数秒後に、次のようなメッセージが表示されます。

```
/N0/PS2: Status is OK  
/N0/PS2, hotplug status, PS2, module inserted (9,17)
```

注 – PS2 および PS3 のメッセージが混在したり、SEEPROM エラーが同時に表示される場合があります。

2. 次のようなメッセージが表示されます。

```
/N0/PS2: Status is Failed
```

およそ 10 秒後に、次のようなメッセージが表示されます。

```
/N0/PS2: Status is OK
```

3. 次のようなメッセージが表示されます。

```
/N0/PS2: Status is Degraded
```

およそ 10 秒後に、次のようなメッセージが表示されます。

```
/N0/PS2: Status is OK
```


4. 次のようなメッセージが表示されます。

```
Device voltage problem: /N0/PS3 abnormal state for device: 48 VDC 0  
Volt. 0 Value: 0.0 Volts DC  
/N0/PS3, sensor status, over limit (7,1,0x608030b000a0000)
```

およそ 10 秒後に、次のようなメッセージが表示されます。

```
Device voltage stabilized: /N0/PS3 normal operating state: 48 VDC 0  
Volt. 0 Value: 48.0 Volts DC  
/N0/PS3, sensor status, under limit (7,2,0x608030b000a0000)
```

5. SEEPROM メッセージは、次のように表示されます。

```
SepromContainer.writeOut: verify error: offset=05b0  
expected=00  
observed=ff  
/N0/PS2: SepromContainer.writeOut:  
sun.serengeti.I2cException: verify  
error: offset=05b0 expected=00 observed=ff
```

または

```
SepromManufacturing.getIntBcd: malformed Manufacturing data:  
java.lang.NumberFormatException: S2 body=<S2> blen=2  
/N0/PS2: SepromSection(constructor): Invalid CRC observed=80  
expected=79
```

名称に関する注意事項

ce0 および ce1

Sun Fire V1280/Netra 1280 サーバーは、IB_SSC 上に、10 Mbps および 100 Mbps、1000 Mbps で動作する 2 つのオンボード Ethernet インタフェースを備えています。背面パネルにある RJ-45 コネクタが付いた 2 つのポートを使用すると、このインタフェースに接続できます。

一部のソフトウェア出力では、Ethernet インタフェースは ce0 および ce1 として表示されます。

- ce は Ethernet ドライバの名前です。
- 0 および 1 は、インスタンスの番号です。